

台湾内政、日台関係をめぐる動向（2011年5、2011年6月）

馬英九呉敦義ペアの選出と李登輝元総統の起訴

石原忠浩（台湾・政治大学国際関係センター助理研究員）
（元（財）交流協会台北事務所専門調査員）

馬英九総統は6月19日、次期総統副総統選挙の副総統候補に呉敦義行政院長を指名した。同指名を受け中国国民党は7月2日に全国党員代表大会を開催し、馬呉ペアの擁立を正式に決定した。民主進歩党は、6月23日に総統選挙対策事務所の成立を発表し、行政院長を歴任した蘇貞昌、謝長廷、游錫堃の三氏がともに同事務所の要職に就任した。台北駐日経済文化代表処は、5月に台湾に関する意識調査を実施し、2年前の調査と比較して日本人の台湾に対する好感度、日台関係に関する認識などほとんどの項目で前向きな結果を得た。

1. 次期総統副総統選挙関連

（1）蕭萬長副総統の次期総統選挙不出馬宣言

5月31日、蕭萬長副総統は記者との茶話会の席で事前予告のないまま、次期総統副総統選挙には出馬せず、政界から引退する意向を表明した。¹ 蕭副総統は、馬総統と当初から1期四年の任期しか務めないという君子協定があり、また世代交代という時流も考慮し、不出馬の決定を下したと説明した。また、残された1年の任期の間は職責を全うするとともに、国民党の選挙活動には引き続き関与していくと述べた。一方、馬総統も別途声明をを発表し、4月下旬に蕭副総統から次期選挙には出馬しない意向を聞かされた後、二人は長い時間をかけて議論し、慰留したが蕭副総統の意思は変わらなかったため、最終的には副総統の意向を受け入れることになったと説明した。² 馬総統は蕭副総統が任期中に経済問題を中心とした重要政策において大きな役割を果たしたことを賞賛し、政界引退後も最も重要な民間の友人として力を貸していただきたいと述べた。

馬総統の次期総統選挙への出馬に対し、党内では挑戦者がいなかったことから、国民党内部や世

論では副総統人事が注目されていた。蕭副総統は、副総統在任中に大手術をするなど健康面での問題が指摘されたほか、馬総統が再選を目指すにあたって相乗効果も限定的との見方があり、退任は既定路線の結果であった。その一方、マスコミや党内が行う世論調査では、馬英九王金平のペアで選挙戦を戦うのが最強という調査結果が出ていたものの、両氏の間には過去の争いにかかる怨念があり、不可能な選択肢ととらえられ、年初から呉院長が有力視されるようになっていた。国民党関係者は、呉院長は世論調査での支持度も比較的高く、馬総統への協力を惜しまず、馬総統の幕僚も安心する人物であったことが決め手となったとの指摘がされた。³

（2）国民党副総統候補に呉敦義行政院長を指名

6月19日、馬総統は自身の選挙対策事務所「台湾加油讚」で記者会見を開催し、呉敦義行政院長を自身が再選を目指す次期総統選挙の副総統候補に指名し、馬呉ペアで選挙戦を戦うことを公表した。⁴ 馬総統は呉院長について、昨年立法院において「失業率が5%以下に下がらなければ、辞任する」と主張した後、その約束は実現されたよう

に非常に勇気のある政治家であると評価する一方で、保険料の滞納で、健康保険が利用できなくなっていた38万人に対して同保険の利用制限を解除するなど情に厚い政治家でもあると同人の施政を肯定した。また馬総統は呉氏を「二世政治家ではなく、エリート家系ではない基層社会の出身者であり、長期にわたり地方首長を務め、世論の動きを掌握することに精確である」と評した。

同会見には5月末に不出馬宣言をした蕭副総統も同席し、「党内団結」、「世代交代」を印象付けた。呉氏は台湾中部南投県出身で、記者、台北市議、南投県長、高雄市長、立法委員などを歴任、馬総統の主席就任に伴い党秘書長に抜擢され、その際に馬氏の信用を得るようになり、2009年9月からは行政院長を務め今日に至っている。同人は20代から政治キャリアを積み始めたが、「孤鳥」と称されるように徒党を組まず、派閥に属せず、2000年の総統選挙では宋楚瑜氏が副総統候補に迎えることを考慮したが、呉氏は結局、連戦と宋楚瑜の間をとり動じなかったとされている。

私自身の専門調査員時代の回顧になるが、2007年当時党秘書長就任直後に表敬した際、会談のはじめは淡々とした事務的な語り口で、「外国人に儀礼的に会っている」という雰囲気であったのが、話題が次期総統選挙や党内改革の話になると次第に熱がこもり、会見予定時間を越えて、身振り手振りを加えて熱弁を振るう姿は昨日のように思い出されるほど、インパクトの強い政治家であったと記憶している。

同人の選出は、馬総統とは異なる、「本省人」、「非エリート階級出身」、「中部」、「非学者」、「世論に敏感」、「弁舌が立つ」などの特性を有しており、馬総統にとって相互補完効果があるという評価が一般的である。一方で匿名の国民党関係者は、蕭萬長を引き続き副総統候補に選んでおけば、「ポスト馬英九」についての党内駆け引きは、4年間先延ばしにできたが、政治的に野心のある呉氏が

副総統候補になったことでポスト馬のライバルであるとされる朱立倫新北市長らとの暗闘が一足早く始まり、かかる動きが総統選挙に影響を与える可能性を示唆した。⁵

民進党は、陳其邁報道官が、「馬総統は2008年の選挙で蕭萬長氏を副総統候補に選んだ理由として蕭氏は経済問題に強いという理由を挙げていたが、今回の呉氏選出に関しては弁説が立つことを理由にあげており、国を治めるのには弁説がガバナンス能力より重要なのであろうか」と疑義を呈し、「呉院長は自身が自画自賛する失業問題、住宅価格の高騰問題、食品安全など庶民の不満を何一つ解決していない」と厳しく批判した。⁶ 蔡主席は、「馬総統は現職の総統なのに、このように慌て副総統候補を決定したのは、自身の施政に自信がないからであろう」とその姿勢に疑義を呈した。⁷

(3) 国民党全国党員代表大会で馬呉ペアを正式に選出

中国国民党は、7月2日に第18回全国代表大会第2回会議を台中市で開催し、次期総統選挙候補に馬英九・呉敦義ペアを選出する事案を正式に採択した。⁸ 馬主席は、指名受諾後の演説で、執政三年間の実績を誇るとともに陳水扁前総統を含む前政権の汚職政務官の多くが法の裁きを受け収監されていることを指摘し、クリーンな政治の継続性を強調し、さらに4年間努力し、台湾を更に良くすると党員に訴えた。⁹

呉伯雄名誉主席は、演説で「党内には馬総統の施政、党運営に不満を持つ者がいるが、それでも全力で馬英九呉敦義ペアを支持すべきだ」と団結を訴えたが、他人の意見を借りた馬総統への不満の表明、党内に馬氏の運営に不満が存在していることを公に牽制したともみなすことができ、注目を集めた。¹⁰ 実際党大会の数日後に、友党（であるはず）の親民党はプレスリリースで、国民党と

の次期立法委員選挙での協力関係は困難であり、我が道を行くとも取れる声明を発表するなど党内、藍軍内部で若干の不協和音が出ていることを露呈した。¹¹

民進党は陳報道官が、馬総統の演説に対し、「馬総統は政見公約の9割が達成されたというが、その成果はどこにあるのか？」と指摘し、一昨年のお八八水害に対する対応の遅れなどの事例を用い、同総統の治国能力に疑義を呈した。¹²

(4) 民進党の副総統候補をめぐる動き

5月上旬に民進党の予備選で勝利した蔡主席が副総統候補に誰を迎えるかは、政権奪回を目指す民進党だけでなく、野党、世論の関心の的であった。そのような雰囲気の中、『聯合報』は5月12日夜に蔡主席と彭淮南中央銀行総裁が、蔡主席の自宅で密会したと報じ、同紙は「今密会は単純な財政経済問題の意見交換ではなく政治的な匂いがする」と報じた。¹³ 同報道に対し民進党報道官は、今会談は蔡主席が総統予備選後に実施している「教えを請う旅(請益之旅)」の一連の活動であり、今回の会見では副総統問題については議論しないと『聯合報』の報道を否定した。¹⁴ 同総裁は、民進党が党外人物から副総統候補を迎える場合、有力候補として頻繁に取り上げられていた人物であり、他の媒体でも「民進党の副総統候補に彭総裁が選出か」などと大きく報じられた。その後、同総裁は関連報道を自ら否定することで噂を退けた。

5月19日には、蔡主席と予備選で激しく争った蘇貞昌氏との会談が持たれた。¹⁵ 同会談の様子は、蘇陣営の意向を反映しマスコミに全て公開されたこともあり、選挙事務に対する具体的な協力体制への言及は一切なく、蔡主席が蘇氏に協力を要請する姿勢に対し、「自分が何をすべきか明確にしてほしい」と繰り返し、蔡主席は「テレビカメラの前で選挙にかかる具体的なことを述べるわ

けにはいかない」と交わすのが精一杯であった。また会談終了後の握手をする姿もぎこちなく、会談全体は気まずい雰囲気ですべて終始したと当地メディアは報じた。¹⁶ かかる姿は、蘇元院長の処遇も含めた党内団結の困難さを予感させるものとなった。

(5) 民進党の選挙事務体制の発足

「蔡蘇会談」から1カ月が過ぎた6月22日、蔡英文主席は党幹部が見守る中で次期総統選挙にかかる選挙事務委員会につき公表し、同委員会の主要メンバーに蘇貞昌元行政院長が主任委員、謝長廷元行政院長が総指揮、游錫堃元行政院長が総督導に就任し、蔡主席は「この選挙チームの組み合わせは最強の組み合わせだけでなく、勝利のチームである」と強調し、「われわれは必ず勝利する」と氣勢をあげた。¹⁷ 民進党寄りの『自由時報』は、一面トップで党内「四巨頭の合体」を歓迎し、翌朝刊の一面トップで報じた。¹⁸

予備選で蔡主席と激しく争い僅差で惜敗し去就が目された蘇元院長が選挙事務の主任委員を務め、立法委員選挙での比例区議席の拡大を目指すため立法委員選挙の比例区からの出馬の可能性を否定せず、蔡主席に従う姿勢を明確に示した。¹⁹

選挙事務態勢を見る限り、民進党は少なくとも表面上は選挙に向けた党内勢力の整合が完成し、挙党体制が整ったとの論評がある一方で、副総統候補に名前が挙がっている蘇嘉全秘書長が同委員会の執行副幹事及び中部地域の選挙事務を統括する要職に就任したように、副総統候補が決まらないまま選挙事務体制が発足したことは、「慌しい出発」であるという指摘もされている。²⁰

国民党は蘇俊賓報道官が、「関連報道をテレビニュースで見ると蔡主席以外の3名の元行政院長は陳水扁政権の要人であり、時代が4年前か8年前に逆戻りし、陳水扁が戻ってきたのかと思った」と揶揄し、同布陣に新味はないと指摘した。²¹

(5) 支持率世論調査の動向

筆者は本稿で幾度となく指摘しているが、台湾の支持率調査をはじめとした世論調査は、設問の設定や調査方法で調査機関が望ましいと考える結果を導くことも可能であり、特に政党が実施する世論調査に関しては、色眼鏡を用いて検討する必要がある。したがって、かかる調査は現段階の政党、候補者の「勢い」、「雰囲気」を感じる程度のものであり理解されたい。

筆者が比較的信頼する『遠見雑誌』が実施した調査では、5月上旬と6月中旬の次期総統候補の支持率調査によると、5月時の調査では馬総統の蔡主席に対するリードは僅か0.3%であったのが6月中旬の調査ではその差を約5%リードする結果が出たことで国民党寄りの『聯合報』は、馬蔡の支持率に差が開いたと報じた。²² (表1) 一方民進党は、同雑誌の調査結果に対して、客観的でなく、専門的でもない機関による調査であるとして批判した。²³ また大手有線テレビで国民党寄りの『TVBS』が実施した支持率調査でも、5月中旬と下旬の調査結果の比較では、馬総統の支持率は微減(-1%)したが、蔡主席の支持率が5%減となったことから、こちらも両者の差は5%に広がる結果となった。(表2) 最新の7月上旬の情勢では、

国民党の内部調査では馬が6%リードしていると指摘したのに対し、民進党陣営は内部調査では蔡主席が小差でリードしていると主張するなど「各自各話」(各自が好きな事を言う)状態にある。²⁴ しかしながら、4年前の選挙では、当時の馬候補が謝長廷候補を常に10%前後リードしていたのと比べると、次期選挙が2008年の選挙以上に接戦になるのは相違ないものと予測される。

支持率は常に変化するという事を承知しながらも、現時点で馬が半歩リードとなった背景には就任3周年を前後して後述する記者会見をはじめ積極的に政績のアピールを行い、かかる動向が世論に浸透した結果であるとの指摘もされている。一方で、民進党陣営は蔡主席の予備選勝利後、新しい動きが見られない支持率の伸び悩みに反映しているのかもしれない。

2. 次期立法委員選挙関連

(1) 一般情勢：北部国民党優勢、南部民進党優勢、勝負の鍵は中部

本誌5月号で次期総統選挙は、2ヶ月前倒しされ立法委員選挙と同時に実施になったことを紹介した。6月末の段階で国民両党はともに、党内予備選や協議を通じて9割ほどの次期立法委員選挙の

表1 遠見雑誌による総統候補の支持率調査

調査日	馬英九	蔡英文
5.9-10	38.9%	38.6%
6.13-15	41.2% (+ 2.3%)	36.3% (- 2.3%)

資料元：遠見雑誌民調中心「『馬總統滿意度：2012年總統大選』民調」(2011年6月20日) <http://www.gvm.com.tw/gvsrc/index.asp>

表2 TVBSによる総統候補の支持率調査

調査日	馬英九	蔡英文
5.16-19	45%	44%
5.26-30	44% (- 1%)	39% (- 5%)

資料元：TVBS「總統大選副手人選民調」(2011年5月30日)

http://www1.tvbs.com.tw/FILE_DB/PCH/201106/qm0u8v02hs.pdf

選挙区候補が確定したが、1割ほどの苦戦地域を中心に未確定の選挙区も残されているため、新聞、テレビ等の調査機関も立法委員選挙にかかる世論調査は実施されていない。かかる情勢の中で『自由時報』は、次期立法委員選挙まで7ヶ月を切った時点で、「最新民意」を基に全体的な趨勢を見通した。

同紙は立法委員全議席113のうち、73の小選挙区を対象に最新の民意として、2009年の県市長選挙、2010年の直轄市長選挙における国民両党候補の当該選挙区の政党別得票率を参考に、次期選挙のおおまかな趨勢を分析した。同紙は政党別得票率が7%以上の場合は、一方の政党の「優勢」区とみなし、得票率差が7%以下の選挙区を「激戦」区として分類した結果、藍軍（国民党系）優勢区28、緑軍（民進党系）優勢区20、激戦区25という結果となったと報じた。²⁵

候補者本人の要素、第三党の立候補など他にも考慮すべき要素はあることを踏まえたうえで概観すると、次期立法委員選挙の大きな特色としては藍軍優勢地域は中部彰化県以北、緑軍優勢地域は南部雲林県以南に分布しており、「北部国民党、南部民進党」の大きな構図に変化はない。²⁶ その一方で総統選挙でも勝負の分かれ目といわれる中部最大の台中市では8選挙区のうち6選挙区で激戦区となっているほか、新北市8、高雄市6と大都市の選挙区で激戦区が多いことが明白になった。

同紙は民進党への期待を込め、2008年以降の民進党の上げ潮の趨勢を持続させ、激戦区で19議席を獲得すれば、全体で過半数の議席を獲得することも夢物語ではないと強調するが、現実的には現有議席の33(選挙区は19)から着実に上積みし、過半数に迫る戦いができるかであろう。一方、国民党は前回の選挙では「馬英九旋風」が吹き荒れ、「勝ちすぎ」た感があり、次期選挙では「風」も期待できないことから、議席大幅減は不可避であり、守りの選挙戦を強いられるとの見方が大勢であ

る。

次号では国民両党の候補者もほぼ確定し、世論調査も行われているはずなので詳細な紹介ができるはずである。

(2) 民進党比例区候補者リストの公表

民進党は6月29日に次期立法委員選挙の比例区名簿を公布した。²⁷ 当初から同名簿で注目されていたのは、党内予備選で蔡主席に惜敗した蘇元院長と未だに党内で一定の影響力を有する游錫堃、謝長廷元院長が名簿に記載されるか否か、また記載された場合は、当選ライン或いは当落線上ラインのどこに記載されるかであった。結果は、游元院長が民進党が予測する当確ラインぎりぎりの16番目に記載された一方で、蘇、謝元院長はそれぞれ、当選はかなり困難だと予測される18、20番目に記載された。²⁸ 蘇謝両名をわざと、落選濃厚な順位に配した意図は、支持者に対して「蘇謝両元院長を国会に送り込むためにあなたの1票が必要」と訴えることで、支持者を刺激し比例区得票数を伸ばすことにある。しかし、名簿20位の謝元院長が当選するには民進党の得票率は58%が必要とされ、前回選挙の得票率が36%であることを考えれば、現実的には不可能な任務とみなされており、民進党が政権奪回した場合には蘇謝両名に対しては、別のポストが用意されると見られている。

同名簿に対する見方は、蔡主席が当選ラインとされる16名を政治人物と社会人士に8名づつ分けて平等に選んだと指摘したが、実際には党内派閥の均衡を候補者の専門分野より重視したものと見方が大勢であった。²⁹

他に注目されたのは、立法委員を6期務め、民進党内においては潤沢な資金力を背景に元老的立場にある蔡同榮委員が当選困難な22位に記載されたことであった。同人は、党内では急進独立派、陳水扁前総統を一環して支持する人物であった

表3 民主進歩党の次期立法委員比例区名簿リストと順位

順位	姓名、背景	順位	姓名、背景	順位	姓名、背景
1	陳節如 (立法委員)	2	柯建銘 (立法委員)	3	鄭蘇華 (工商界)
4	李應元 (元閣僚)	5	田秋堃 (立法委員)	6	蔡煌瑯 (立法委員)
7	蕭美琴 (元立法委員)	8	陳其邁 (元閣僚)	9	鄭麗君 (元閣僚)
10	段宜康 (元立法委員)	11	尤美女 (法曹界)	12	吳秉叡 (元立法委員)
13	薛 凌 (立法委員)	14	余 天 (立法委員)	15	翁金珠 (立法委員)
16	游錫堃 (元行政院長)	18	蘇貞昌 (元行政院長)	20	謝長廷 (元行政院長)

資料元：「蘇游謝…安全邊緣 蔡同榮…重挫」『聯合報』（2011年6月30日）頁2

が、70歳過ぎという「高齢」でもあり、党内に根強い世代交代を強く求める声と陳前総統との距離が近すぎることから蔡主席が当選圏外に記載したと見られた。³⁰ 7月上旬の段階では、今回の名簿リストに漏れた王幸男委員が名簿2位に入った柯建銘委員の風評について疑義を呈したほか³¹、呂前副総統も名簿決定にかかるプロセスを対外的に説明すべきとの批判が出ており、³² 蔡主席はじめ党中央指導部は、かかる党内の不満の調整に労力を費やすことが余儀なくされるであろう。

一方国民党は、9月に比例区名簿を公表する予定であり、王金平立法院長、楊志良前衛生署長らの上位名簿入りが確実視される中、同党関係者は民進党の名簿より見栄えの良いものになると自信を示した。³³

3. 李登輝元総統の起訴とその余波

6月30日台湾最高検特捜部は、李登輝元総統と当時の側近で国民党の金庫番とも称された劉泰英元中華開發（党営企業）理事長を公金横領などに関与したとして起訴した。同起訴につき翌日の台湾各紙は一面トップで報じた。³⁴ 起訴状によると李元総統と劉元理事長は共謀し、1994年当時外交関係のあった南アフリカとの国交関係を継続させるためマンデラ元大統領の所属していた政党に対する資金援助として機密費を充てたが、その剰余金779万ドル（約6億3千万円）を資金洗浄し、

総統退任後自身が創設したシンクタンク台湾総合研究院の設立に流用したと指摘している。李元総統の事務所関係者は、李元総統は自らの潔白を証明するとのコメントを発表した。

李元総統を精神的リーダーとしている台湾団結聯盟の黄昆輝主席は、今回の起訴は馬英九の李元総統に対する報復であり、異議分子を肅清する意図は明白であると厳しく批判した。³⁵ 民進党は、陳報道官が「司法の正義は一致しているべきであり、国民党が50年あまり政権を担当した中で、どうして李元総統の件につき調査したのか」と疑義を呈し、「次期総統選挙まで半年あまりとなったこの時期に李元総統を起訴したことには、政治的動機があるのではないかと疑わざるを得ない」と指摘し、司法部門に対して「中立性を厳守し、選択的な捜査をしない」よう呼びかけた。³⁶ 民進党籍立法委員は、李元総統の機密費にかかる捜査は長期にわたっており、今になって起訴したのは、明らかな選挙対策であり、政治的な「追殺」であると批判したほか、蔡英文選挙事務所関係者は、国民党の一部立法委員が、蔡主席は李総統の時代に他の機密費から委託研究を受けていた問題を提起し批判しているように、同事件の蔡主席への影響を憂慮する発言も散見された。³⁷

国民党は、頼素如報道官が民進党陣営が同裁判に対する行政の司法介入を指摘したことに対し、「同事案は陳水扁元総統が李元総統を特捜部に告

発したのが事実であり、民進党は焦点を曖昧にしようとしている」と逆批判した。³⁸ その後、司法への政治的介入の噂が広がることを火消しするべく、馬總統は7月1日午後自ら記者会見を開き「自分は總統就任後、一貫して司法を尊重し、個別の司法案件に介入、干渉することはしてこなかった」と述べ、野党陣営による「政治的な追殺、異議分子の粛清」といった指摘に対し、「そのようなことは絶対にないし、かかることが中華民国で起こることは絶対に許さない」と厳しい口調で指摘し、野党陣営の指摘を完全に否定した。³⁹

同日夜には台湾團結聯盟が政治資金集めを目的とした晩餐会を開催し、李元總統、蔡主席らが出席した。この席で李元總統は、「もう90歳だ、死を恐れることもない」、「自分は打倒されない」と強調し、自身の潔白を訴えた。また蔡主席も慎重な口ぶりながら、「今回の検察の動きには政治的動機を疑わざるを得ない」と強調した。⁴⁰ また同日、黄昆輝台聯主席は、「李元總統は5月31日に検察の事情聴取を受けたあと、6月8日に黄世銘検察総長が中国を訪問し、15日に帰国、30日に李元總統を起訴したことは、中国の意向を受けて(起訴にかかる)行動をした」と指摘するなど、政治的介入、それも中国の影響力を強く示唆した。⁴¹ 黄主席の指摘に対して、黄総長は政治家は想像力が豊富すぎるとして否定した。⁴²

同裁判の進展が選挙に与える影響は未知数ではあるが、南部選出の国民党立法委員は南部は台湾意識が強く、民進党が陳水扁裁判と同様に政治的司法への介入を強調することが予想され、今回の起訴は南部を中心とした立法委員選挙の情勢に一定の影響を与える可能性を示唆した。⁴³ 実際に民進党支持が旗幟鮮明な新聞、テレビは李登輝、陳水扁と二代続いた台湾人總統が起訴されたことを強調し、本土派の結集、団結を訴える論調が散見されるなど、苦戦必至の国民党にとっては軽視できない不確定要素になる可能性を孕んでいる。

4. 馬總統就任3周年関連

馬總統は、就任3周年の前日に、訪問先の台南大学で記者会見を開催し、「主権、人権、環境権」と題する演説を行った。同演説には台南地区の学生代表も出席した。⁴⁴ 次期總統選挙における馬總統自身の弱点として指摘されるのは、「南部地域」、「若年層」があり、就任3周年の演説の場を南部古都の台南、それも青年の集う大学を選んだことは現政権の意識を理解でき興味深い。

演説は、世代を超えた責任として主権、人権と公の正義、環境と正義の問題を語った。「主権」に関しては、政権発足後の3年間、92年コンセンサスの基本のもとに兩岸関係を改善し、緊張を緩和させ、兩岸関係を促進させてきたと強調する一方で対外関係も実務関係を中心に大きな進展があり、特に対日関係では札幌代表事務所の開設、羽田松山直航便の通航について言及したほか、野党が指摘する「主権が侵されている」、「台湾を売り渡す」等の指摘は当たらないと主張した。

「人権と公の正義」に関しては、1967年に批准した国連の人権規約を政権発足後、国内法に盛り込んだほか、總統府内に「人権諮問委員会」を成立させ、人権政策を立案し、定期的に台湾住民の人権報告を行ったと指摘した。また公の正義については、南部の建設を重視し、南北発展のバランスを採る政策を執行した他、弱者に留意した社会保障政策を推進していると強調した。

「環境と正義」は、台湾社会の発展に伴い、経済発展と環境問題への両立は不可欠の課題となっているとし、台湾社会の永続的発展のためにも経済構造の転換や新たな産業政策の創出が必要とされていると主張した。

最後に、総括する形で聴衆に対し、「改革は既に発生しており、中断することはできない」として自身が推進する理想への理解と支持を求めて演説を締めくくった。質疑応答では、現在の対外政策

が中国に傾斜しすぎているのではとの質問には、「現在の兩岸関係は協力関係であり、依頼しているともいえるが相互依頼関係でもある」と強調した。⁴⁵

同演説に対して、民進党は陳報道官が、自身の選挙活動の場所に大学という公の場所を選んだことに疑義を呈し、また演説で誇った自身の業績に関しても、台湾住民の認識とは大きくずれがあり、馬総統の自己満足に陥っていると批判した。⁴⁶

5. 食品安全問題

台湾では5月末に食品への使用が禁止されている可塑剤成分を含んだ「起雲剤」(乳化剤)を製造した企業から供給を受けた業者が製造した清涼飲料、ジャム、錠剤などが市場に長期にわたって流通していることが明らかになり、台湾でも著名の食品メーカーの多くが含まれていることも明らかになった。⁴⁷当初は起雲剤に「発がん性物質が含まれている」、「男子の生殖機能に影響がでる」などの風評が流れたこともあり、一時騒動になった。⁴⁸その後、衛生当局は汚染食品の徹底的な回収と不徳業者の摘発と関係者の逮捕を敢行したことに加え、今事案の起雲剤は摂取した後すぐに死に至るような毒性の強いものではなく、明白な病例も報告されなかったこともあり、騒動は1ヶ月ほどでほぼ沈静化した。台湾でもここ数年間発生した食品安全に関する事件では、「中国製毒粉ミルク事件」、「米国牛肉事件」が記憶に新しいが、今回の事件では衛生当局は比較的迅速に対応したこともあり、政務官の辞任等にかかる政治問題化することはなかった。

6. 日台関係

(1) 衛藤征四郎衆議院副議長の訪台

衛藤衆議院副議長が訪台し、5月5日に馬総統と会見した。⁴⁹衛藤副議長からは、東日本大震災への台湾からの大きな支援に感謝の意を表明し

た。馬総統は東日本大震災に対して、改めて慰問の意を伝えるとともに、被災地の復興が早急に完成することを祈る旨表明した。また馬総統は、日本の国会で「海外美術品等公開促進法」が採択されたことに対し謝意を表明し、早期に日本で故宮文物の展覧会が開催されることを期待する等の発言があった。

(2) 小池百合子元防衛大臣の訪台

小池元防衛大臣が訪台し、5月6日に馬総統と会見した。⁵⁰小池元大臣の今回の訪台は、谷垣自民党総裁の代理として、台湾各界による日本への思いやりと支援への感謝を表明するためのものであった。小池議員からは、「絆」と刻み込まれた水晶の盾を馬総統に贈り感謝の意を表明した。馬総統からは、東日本大震災後に台湾官民が日本に対して行った支援につき説明があったほか、今回の震災は台日間の関係を深めることになっただけでなく、台湾人の日本に対する深い関心を示すことになったと述べ、被災地の早期の復興を願う旨の発言があった。

(3) 八田与一記念公園開園式に馬総統、森喜朗元総理らが出席

5月8日に日本統治時代の台湾で農業水利事業に大きな貢献のあった八田与一氏の記念公園の開園式が行われ、台湾側からは馬総統、頼清徳台南市長、日本側は森喜朗元総理らが出席した。⁵¹馬総統は祝辞で、八田氏の功績を賞賛するとともに、一部の人から馬総統が植民地の歴史を美化しているとの疑義があることに対し、「事実は事実として認め、恩と恨みは分けるべき」であると強調したほか、自分は「友日派」であり、日本の最も良き友人であると述べ、八田技師の故事と同記念公園が日台間の新たな歴史の始まりとなることを望むと述べた。

(4) 王金平立法院長の北海道訪問

5月12日王金平立法院長が、立法委員14名、外交部、旅行業界関係者を含む総勢200名以上の大型観光団を率いて、東日本大震災後初めて北海道を訪問し、12日には高橋北海道知事をはじめとする盛大な歓迎を受けた。⁵² 高橋知事は、今訪問団は震災後海外から初の最大規模の観光団であり、北海道の観光振興にとって重要な意義を持つものであると指摘した。

同観光団は札幌、釧路、小樽などを観光した後、最終日の15日には日本側の主催による答礼レセプションが開催され、小川勝也防衛副大臣、高橋知事らが出席し、小川副大臣から、台湾各界の東日本大震災に対する支援に感謝の意を示したほか、台湾からの観光客の訪問を歓迎する姿勢を改めて示した。⁵³ 王院長は、今訪問を通じて北海道の災害復興を見ることができ、北海道の海産物が安全であることも確認したとして、北海道の観光業者を励ました。

(5) 日本における台湾に関する意識調査

台北駐日経済文化代表処は、世論調査会社のニールセン・カンパニー・ジャパン社に委託して、5月18-23日に東日本大震災の被災地を除く日本全国の20歳以上の男女を対象に、電話とインターネットによる「台湾に関する意識調査」を行なった。調査項目は、「台湾に対する認知、認知経路、

「日台関係に対する意識」、「台湾への渡航経験や観光意向」、「交流意向分野」などからなっている。詳細は駐日代表処のホームページで閲覧できるので参考にしていただきたい。⁵⁴ ここでは、日台関係に関する意識調査から3項目の設問についてのみ紹介する。

表4は調査会社は異なるものの、2年前に実施した調査結果との比較である。台湾に対する「身近」という点に関しては、「感じるが」66.9%にも達し、2年前と比較して約11%増加した。「日台関係の現状」についても91%以上が良好と回答し、これも15%以上増加した。「台湾への信頼」も84.2%と二年前より約20%も増加した。かかる結果に対して、馮寄台代表は、「兩岸関係の改善が台日関係を切り開く上でもプラスに作用したとして、過去二年間にワーキングホリデー協定の締結、駐日代表処札幌分処の解説、羽田松山航空路線の就航など実務関係が進展した」と述べた。

馮代表は特に挙げなかったものの、筆者は今回の調査結果は、東日本大震災に対する台湾官民挙げての日本に対する暖かい眼差し、関心、そして多額の義捐金、膨大な支援物資に対する感謝の念が反映したものであることを信じて疑わない。台湾に居住する者にとって、日本の台湾に対する認識、理解が増えることは望ましいことであり、かかる良好な日台関係を維持、発展させることに強い意義を感じた次第である。

表4 台湾に関する意識調査の主な内容

設問内容	2009年 回答		2011年 回答	
台湾を身近に感じますか、感じないですか。	感じる	56.1%	感じる	66.9%
	感じない	43.2%	感じない	33.1%
現在の台湾と日本の関係は良いと思いますか、悪いと思いますか。	良い	76.0%	良い	91.2%
	悪い	11.3%	悪い	8.8%
台湾を信頼していますか、信頼していませんか。	信頼している	64.7%	信頼している	84.2%
	信頼しない	23.0%	信頼しない	15.8%

資料元：台北駐日経済文化代表処ホームページ「台湾に関する意識調査」(2011年6月1日)

- 1 「世代交替 蕭萬長主導宣布 不連任」『聯合報』(2011年6月1日) 聯1。
- 2 總統府ホームページ「總統及副總統分別針對明年總統連任副手人選發表聲明」(2011年5月31日) <http://www.president.gov.tw/Default.aspx?tabid=131&itemid=24495&rmid=514> 2011年6月5日にアクセス。
- 3 「蕭退吳進『過年後就知』」『聯合報』(2011年6月1日) 聯2。
- 4 「馬英九：吳敦義有豁出去的勇氣」『中國時報』(2011年6月20日) 頁1。「馬吳配起跑 馬讚吳『悲天憫人』」『聯合報』(2011年6月20日) 頁1。「馬吳配成軍 馬：吳現在不會辭職參選」『自由時報』(2011年6月20日) 頁3。
- 5 「大選變數？藍接班卡位戰提前引爆」『自由時報』(2011年6月20日) 頁3。
- 6 民主進歩党ホームページ「陳其邁：十大民怨未解決，是換掉『馬吳』最好理由」(2011年6月19日) http://www.dpp.org.tw/news_content.php?sn=5016 2011年6月20日にアクセス。
- 7 「馬吳配 蔡：這麼快 沒信心嗎？」『聯合報』(2011年6月21日) 頁2。
- 8 中国国民党ホームページ「馬主席：全黨團結爭取總統勝選，國會多數」(2011年7月2日) <http://www.kmt.org.tw/hc.aspx?id=32&aid=6164> 2011年7月3日にアクセス。
- 9 「馬吳配誓師『打拚再4年』」『中国時報』(2011年7月3日) 頁1。
- 10 「吳伯雄：大是大非時刻 不爽攔一邊」『聯合報』(2011年7月3日) 頁2。
- 11 親民党ホームページ「親民黨對於7月4日聯合報社論的六點回應」(2011年7月4日) http://www.pfp.org.tw/news/news_detail.php?gid=1&id=1283&p=1626 2011年7月5日にアクセス。
- 12 民主進歩党ホームページ「馬吹噓政見兌現九成 陳其邁：633的九成是多少？」(2011年7月2日) http://www.dpp.org.tw/news_content.php?sn=5060 2011年7月5日にアクセス。
- 13 「蔡彭談財經？聞到濃濃政治味」『聯合報』(2011年5月13日) 頁4。
- 14 民主進歩党ホームページ「鄭文燦：蔡主席與彭淮南係請益與會面 未提及副手議題」(2011年5月13日) http://www.dpp.org.tw/news_content.php?sn=4916 2011年5月14日にアクセス。
- 15 民主進歩党ホームページ「請益與感謝 蔡主席拜會蘇前院長」(2011年5月19日) http://www.dpp.org.tw/news_content.php?sn=4936。2011年5月19日にアクセス。
- 16 「蘇六問蔡：派我什麼工作」『聯合報』(2011年5月20日) 頁1。
- 17 民主進歩党ホームページ「蔡英文：這是最強的競選團隊，2012年我們一定會贏」(2011年6月22日) http://www.dpp.org.tw/news_content.php?sn=50232011 年7月1日にアクセス。
- 18 「4巨頭合體 蔡：勝利的組合」『自由時報』(2011年6月23日) 頁1。
- 19 「衝國會過半？蘇貞昌：尊重蔡決定」『聯合報』(2011年6月23日) 頁4。
- 20 「觀察站／天王倉卒出發 缺副手難圓滿」『聯合報』(2011年6月23日) 頁4。
- 21 「蔡英文團隊 藍：以為扁又回來」『聯合報』(2011年6月23日) 頁4。
- 22 「遠見民調 總統大選支持度 馬41.2%蔡36.3%差距拉開」『聯合報』(2011年6月21日) 頁2。
- 23 民主進歩党ホームページ「民進黨針對媒體公布2012總統大選民調之回應」(2011年6月20日) http://www.dpp.org.tw/news_content.php?sn=5017 2011年7月1日にアクセス。
- 24 「藍：馬勝蔡6臥 綠：蔡小贏馬」『中国時報』(2011年7月5日) 頁2。
- 25 「立委選舉戰鼓播 25選區藍綠激戰」『自由時報』(2011年6月27日) 頁4。
- 26 「藍營優勢區分布彰化以北 綠軍領先區集中雲林以南」『自由時報』(2011年6月27日) 頁5。
- 27 民主進歩党ホームページ「民主進歩黨第十四屆第十五次中執會新聞稿」(2011年6月29日) http://www.dpp.org.tw/news_content.php?sn=5047 2011年6月30日にアクセス。
- 28 「不分区綠拍板 天王邊緣陣 徹底催票」『中国時報』(2011年6月30日) 頁2、「蘇游謝…安全邊緣 蔡同榮…重挫」『聯合報』(2011年6月30日) 頁2、「綠不分区 游錫堃列16名 期近安全名單 陳節如榜首 蘇謝排邊緣」『自由時報』(2011年4月16日) 頁2。
- 29 「向派系妥協 高於專業改革」『自由時報』(2011年6月30日) 頁2。
- 30 「挾扁闖關反效果 蔡同榮意外落馬」『中国時報』(2011年6月30日) 頁2。
- 31 「呂轟蔡：公布提名過程」『聯合報』(2011年7月2日) 頁4、「王幸男質疑操守 柯建銘」『自由時報』(2011年4月16日) 頁4、
- 32 「轟部分區名單 呂：有閃失需承擔責任」『自由時報』(2011年4月16日) 頁4。
- 33 「藍：不分区名單絕對比綠營漂亮」『中国時報』(2011年6月30日) 頁2。
- 34 「扁告發 李登輝涉貪2.5億被訴」『中国時報』(2011年6月20日) 頁1、「特偵組起訴李登輝、劉泰英」『聯合報』(2011年7月

- 1日)頁1、「國安密帳 起訴李登輝 綠批政治追殺」『自由時報』(2011年7月1日)頁3。
- 35 台湾團結聯盟ホームページ「台灣團結聯盟聲明稿」(2011年6月30日) http://www.tsu.org.tw/index.php?option=com_content&task=view&id=1153&Itemid=2 2011年7月3日にアクセス。
- 36 民主進歩党ホームページ「陳其邁：檢調應嚴守中立，司法正義應具一致性」(2011年6月30日) http://www.dpp.org.tw/news_content.php?sn=5049 2011年6月30日にアクセス。
- 37 「民進黨批政治清算 憂小英也受害」『中國時報』(2011年6月20日)頁5。
- 38 中国国民党ホームページ「賴素如：李前總統洗錢案是陳水扁主動告發，國民黨堅持尊重司法」(2011年7月1日) <http://www.kmt.org.tw/hc.aspx?id=32&aid=6155> 2011年7月3日にアクセス。
- 39 總統府ホームページ「總統針對在野黨不實批評政府介入李前總統司法案主持記者會發表嚴正談話」(2011年7月1日) <http://www.president.gov.tw/Default.aspx?tabid=131&itemid=24705&rmid=514> 2011年7月3日にアクセス。
- 40 「李登輝：90歲了 死都不怕」『聯合報』(2011年7月2日)頁1、「李登輝：不信白白布會被黑」『中國時報』(2011年7月2日)頁1、「再籲棄馬保台 李登輝：不會被打倒」『自由時報』(2011年7月2日)頁1。
- 41 台湾團結聯盟ホームページ「台聯：黃世銘奉中國之命起訴李前總統」(2011年7月1日) http://www.tsu.org.tw/index.php?option=com_content&task=view&id=1154&Itemid=2 2011年7月1日にアクセス。
- 42 「黃昆輝：起訴李 奉大陸指示 黃世銘：憑空想像 毫無根據」『中國時報』(2011年7月2日)頁2。
- 43 「王金平：尊重司法 藍委憂選請」『自由時報』(2011年7月2日)頁4。
- 44 總統府ホームページ「總統『就職三週年記者會』」(2011年5月18日) <http://www.president.gov.tw/Default.aspx?tabid=131&itemid=24404&rmid=514> 2011年5月30日にアクセス。
- 45 「反駁傾中 馬：兩岸關係有依賴 也是相互依賴」『聯合報』(2011年7月2日)頁3。
- 46 民主進歩党ホームページ「對馬總統執政三週年記者會的回應」(2011年5月18日) http://www.dpp.org.tw/news_content.php?sn=4939 2011年5月30日にアクセス。
- 47 「飲料大汙染 喝1瓶舊超標」『聯合報』(2011年5月24日)頁3。
- 48 専門家の指摘では、過去の動物実験では長期間大量に起雲剤に触れた場合は肝臓癌を誘発した事例があるが、人類への影響は証拠がないと指摘している。行政院衛生所国民健康局、国立成功大学環境微量毒物研究中心「食品塑化劑污染衛教手冊」(2011年6月15日) http://www.fda.gov.tw/files/site_content/%E9%A3%9F%E5%93%81%E4%B8%AD%E5%A1%91%E5%8C%96%E5%8A%91%E6%B1%A1%E6%9F%93%E8%A1%9B%E6%95%99%E6%89%8B%E5%86%8A.pdf
- 49 總統府ホームページ「總統接見日本眾議院副議長衛藤征士郎」(2011年5月5日) <http://www.president.gov.tw/Default.aspx?tabid=131&itemid=24168&rmid=514&size=100> 2011年5月30日にアクセス。
- 50 總統府ホームページ「總統接見日本眾議員小池百合子女士」(2011年5月6日) <http://www.president.gov.tw/Default.aspx?tabid=131&itemid=24184&rmid=514&size=100> 2011年5月30日にアクセス。
- 51 總統府ホームページ「總統參加『八田與一系列活動—烏山頭水庫路跑』活動及『八田與一紀念園區啟用典禮』」(2011年5月8日) <http://www.president.gov.tw/Default.aspx?tabid=131&itemid=24184&rmid=514&size=100> 2011年5月13日にアクセス。
- 52 「王金平率團訪日 幫北海道拚觀光」『自由時報』(2011年5月13日)頁4。
- 53 台北駐日經濟文化代表處ホームページ「王金平・立法院長が北海道訪問を終え、台湾に帰国」(2011年5月16日) <http://www.taiwanembassy.org/JP/ct.asp?xItem=199092&ctNode=3522&mp=202&nowPage=1&pagesize=30> 2011年5月19日にアクセス。
- 54 台北駐日經濟文化代表處ホームページ「台湾に関する意識調査」(2011年6月1日) <http://www.taiwanembassy.org/JP/ct.asp?xItem=202393&ctNode=3522&mp=202&nowPage=1&pagesize=30> 2011年6月3日にアクセス。